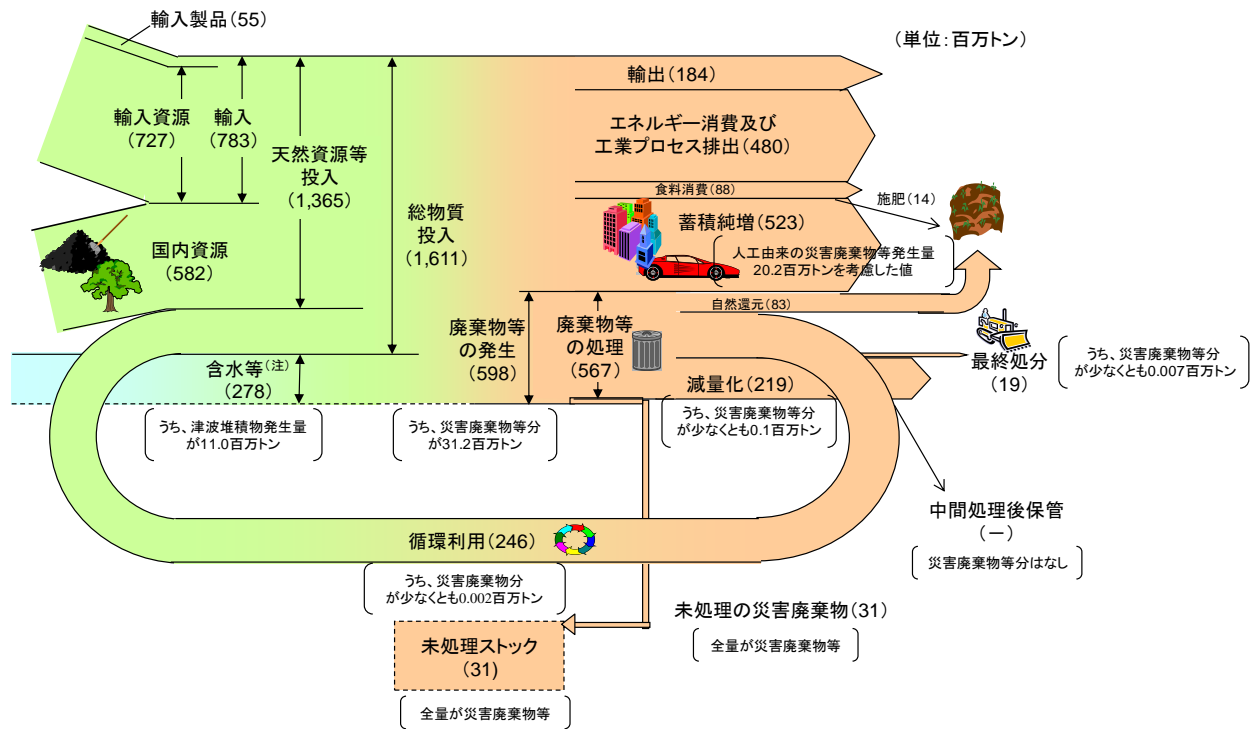
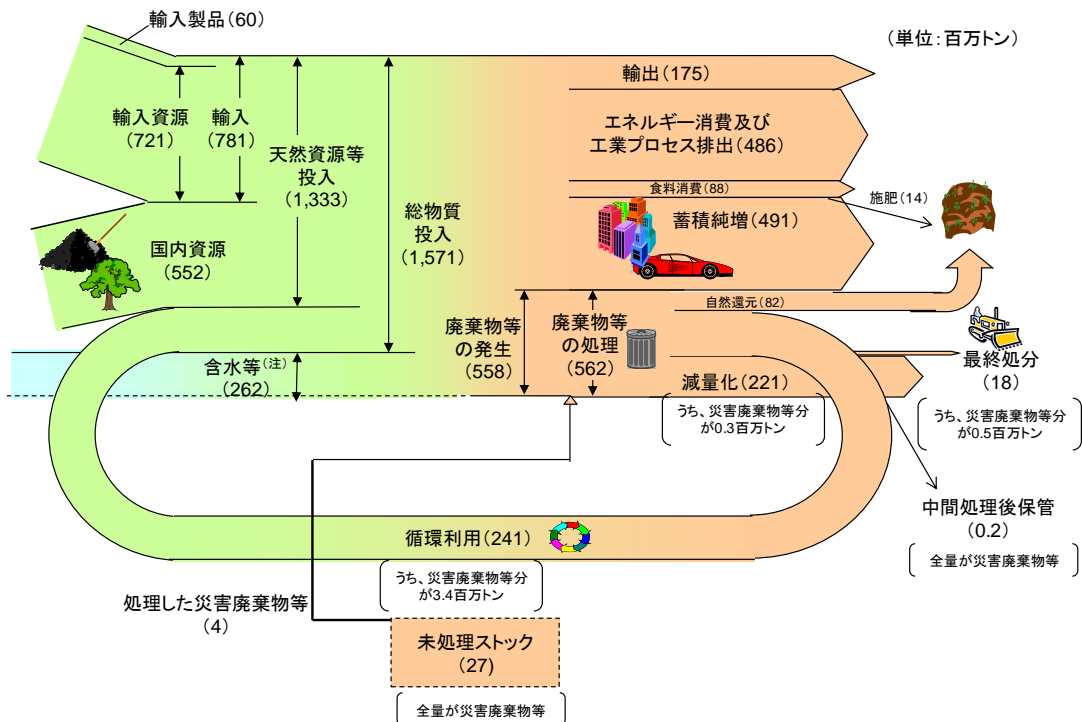


(参考4) 災害廃棄物等を考慮した物質フロー図の試算結果

平成22年度(災害廃棄物等考慮)

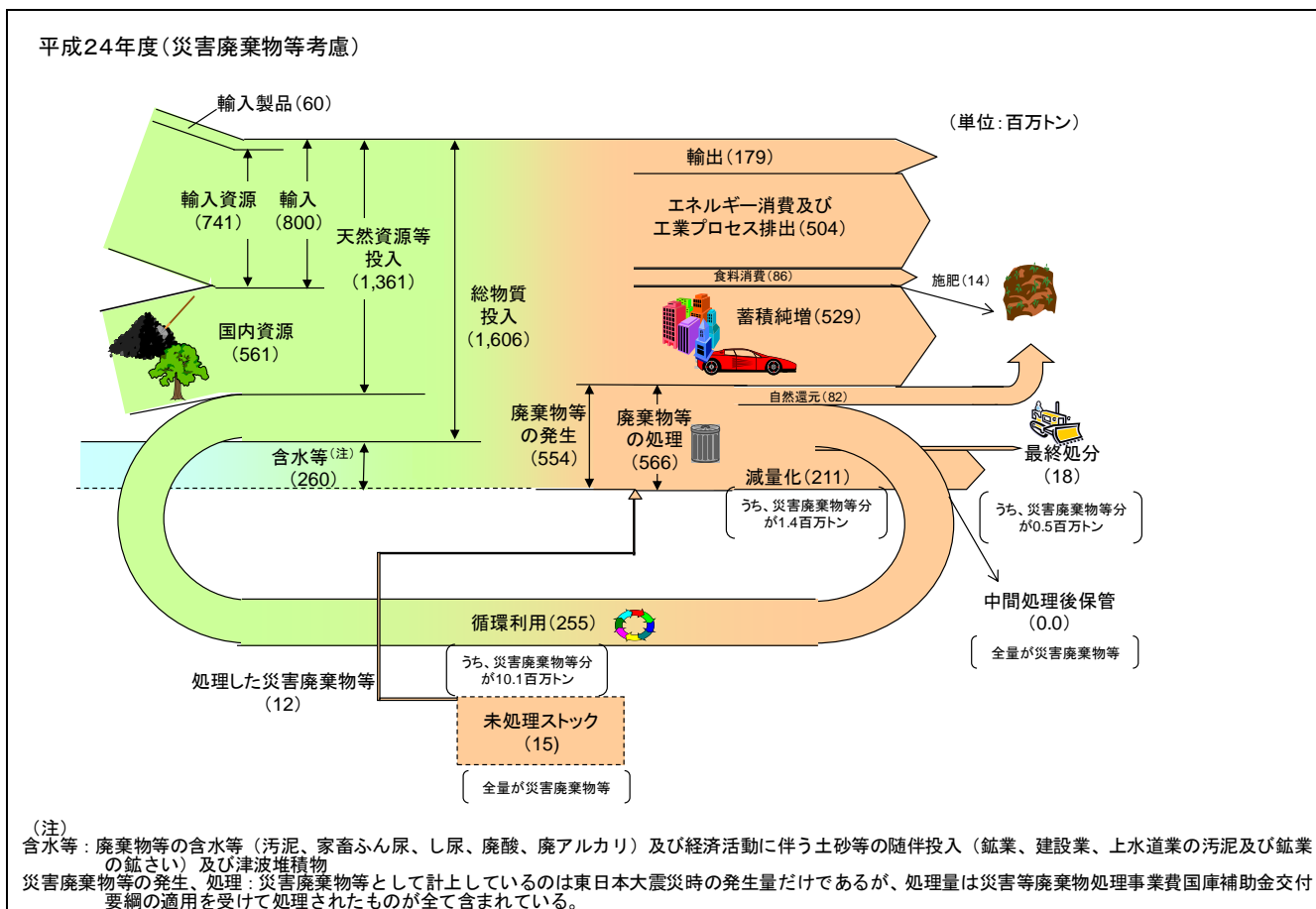


平成23年度(災害廃棄物等考慮)



(注)

含水等：廃棄物等の含水等（汚泥、家畜ふん尿、し尿、廃酸、廃アルカリ）及び経済活動に伴う土砂等の随伴投入（鉱業、建設業、上水道業の汚泥及び鉱業の鉱さい）及び津波堆積物
 災害廃棄物等の発生、処理：災害廃棄物等として計上しているのは東日本大震災時の発生量だけであるが、処理量は災害等廃棄物処理事業費国庫補助金交付要綱の適用を受けて処理されたものが全て含まれている。



<留意点>

- 物質フロー図は単年度の物質の出入りを示すものであるが、過去に蓄積されたものが取り崩されて廃棄物として発生した分についてはその年に蓄積された分から差し引き、「蓄積純増」として記載されている。
- そのため、災害廃棄物も過年度に発生したものも含まれていることに、とりわけ注意が必要である。
- 従来の物質フロー図の「廃棄物等の発生」の概念と、本物質フロー図の「廃棄物等の発生」の概念は異なっている(従来の「廃棄物等の発生」は本フロー図の「廃棄物等の処理」に相当)。
- 災害廃棄物等の発生量の数値は今後も更新されることが想定されるため、その度に災害廃棄物等を含む平成22年度の物質フロー図は作成し直す必要がある(確定するまでに数年程度かかることが想定される)。
- 廃棄物のストックも財のストックも従来の物質フロー図では区別していないことに留意する必要がある。
- 本物質フロー図では、国民経済計算との整合性を意識し、災害廃棄物以外の廃棄物等の在庫の扱いも「未処理ストック」で表現することができる構造となっているが、現状では、データの制約上、廃棄物等の在庫については扱うことができていない。